

結核研究所事業報告等

- ① 結核研究所の実施する研修一覧 . . . . . P 1
- ② 平成21年度事業概要（抜粋）  
    ((財) 結核予防会結核研究所) . . . . . P 2
- ③ ストップ結核ジャパンアクションプラン . . . . . P12
- ④ 公益財団法人結核予防会  
    平成21年度実施事業概要（抜粋） . . . . . P18

## 結核研究所の実施する研修一覧

コース名	対象	募集人数	研修内容
医師8日間コース	医師	30	結核対策に関する基本的な知識(結核の基礎知識、診断と治療、菌検査、DOTS戦略等)を学び、最後に活動計画の作成及び発表を行なう。
医師臨床コース	医師	20	結核の診断治療に携わる臨床医を対象としており、結核症と非結核性抗酸菌症の診断と治療、結核菌検査法、結核及び鑑別すべき疾患の画像診断、DOTS、新しい結核対策における医療機関の役割
胸部X線読影コース	医師	30	肺結核を中心にした胸部疾患のX線読影の講義および実習と、結核対策に関する講義
結核対策合同アドヴァンスコース	医師	30	結核に関する包括的な講義(結核の基礎知識、日本と世界の結核対策、抗酸菌検査、肺結核を中心にした胸部疾患のX線読影、HIVと結核、DOTS戦略等)とワークショップ、事例検討を行い、最後に活動絵計画の作成と発表を行なう。
夏期コース	放射線技師	60	結核対策や放射線業務に必要な最新の知識と、医療や公衆衛生の分野で注目されている新しい話題を取り上げる。
結核対策とX線画像コース	放射線技師	30	結核対策に関して最新の知識を学ぶと共に、X線撮影に必要な撮影技術、装置管理、画質管理、被ばく低減の内容を含む。
結核対策と医療監視コース	放射線技師	50	結核対策に関して最新の知識を学ぶと共に、立ち入り検査において適正な放射線利用を推進するための指導力向上を図ります。受講生のディスカッション、医療監視概論、放射線管理関係法令、被ばく低減の技術等の講義を含む。
結核対策合同アドヴァンスコース	放射線技師	15	結核対策に関して基礎から応用までを網羅するとともに最新の知識を学び、保健師技師としての総合的な技術向上を図るための内容。
保健師対策5日間コース	保健師・看護師	120	保険所で結核対策に中心となって従事する保健師向けのコース。結核の基礎知識(検査、診断、治療、接触者対応など)を学び、対応困難事例の演習を通して多様化する患者対応に必要な知識と技術を習得。
夏期コース	保健師・看護師	150	各コースのフォローアップとして参加し、結核対策の最新情報や新しい技術、知識を紹介。
保健師・看護師等基礎・実践コース	保健師・看護師	180	結核に初めて関わる看護師向けの最も基礎的なコース。感染、発病、診断、治療、DOTS、DOTSカンファレンス、コホート検討会、制度的な課題、事例演習などに取り組む。
結核対策合同アドヴァンスコース	保健師・看護師	20	保健師・医師・診療放射線技師と合同での講義・事例検討・ワークショップを行う。結核に関する包括的な講義(結核の基礎知識、制度的課題、結核とエイズ、日本版DOTS戦略、ハイリスク対応など)とMDRや対応困難事例や接触者検診の事例演習を強化。
抗酸菌検査実習コース	検査技師	16	抗酸菌塗抹、培養、同定、感受性検査、核酸増幅法等に関する細菌学的背景に加え、検査結果の臨床学的解釈等について講義する。また実習は抗酸菌塗抹検査、培養、菌種同定、薬剤感受性検査、核酸増幅法について実習する。
結核行政担当者等短期コース	結核行政担当者	100	結核症や結核対策の基礎、対策の評価方法、結核登録者情報システム、行政実務を学び、結核の行政事務担当者としての視野の拡大と意識の向上を図る。
結核対策指導者養成研修	医師	5	結核対策の全般にわたって精通し、地方自治体等に対しても指導的な役割を果たせる専門家を育成する。
結核予防技術者地区別講習会	結核従事技術者全て	∞	保健所、市町村、指定医療機関等で結核予防事業に従事している技術者に対して研修機会を提供することにより、結核対策に必要な最新の知識と学問の進歩に即応した技術の取得と向上を図る。

※結核対策指導者養成研修、結核予防技術者地区別講習会については国庫補助対象事業。  
また、後者については、各ブロックの自治体が持ち回りで主催。

# 平成21年度事業概要（抜粋）

## （財）結核予防会結核研究所

### Ⅱ. 研修事業計画

#### ①結核対策指導者養成研修

（第1週は平成21年7月13日～7月17日、第2週は10月27日～10月30日、第3週は平成21年11月24日～11月27日に行った。参加者5名）

結核対策の全般にわたって精通し、地方自治体等に対しても指導的な役割を果たせる専門家の育成を目的とする。今年度は臨床医4名（呼吸器科4名）を迎え、結核概論、日本と世界の結核対策の動向、結核対策における新技術（QFT や VNTR）の応用、HIV と結核、多剤耐性結核、非定型抗酸菌症の診療、結核の国際協力、結核の分子疫学、結核対策の行動計画作成および発表、結核対策に係わる特定地域の見学（新宿保健所）等を行った。無事研修を修了し、研修生による評価も良好であった。

### Ⅳ. 国際協力推進事業計画

#### （1） 結核研究所補助金分

##### ＜国際結核情報センター事業＞（14%）

【目的】欧米先進諸国において、結核問題は既に解決したかのように思われたが、最近殆どの国々で結核問題が再興し、それぞれの状況に応じた対策が講じられている。今後の結核対策のあり方を探るためには、先進諸国の動向を探り、それらの国でなぜ結核問題が再興しているか、どのような対策が必要であるか、どのような国際的な取り組みや協力がなされているか、それらの実態に関する情報の把握とその検討が重要である。

##### 【事業】

- ①米先進諸国や結核低まん延国における結核流行や対策に関する情報の収集、分析やその成果の還元
- ②先進諸国で発行（発信）される結核関係の文献や出版物・情報の収集や最新リストの作成。
- ③結核分野に従事する人材の育成に必要な研修・教材に関する情報の収集について継続する。

##### 【成果】

- 1) WHO 等が主催する国際会議に出席し、最新の西欧・東欧諸国、北米の結核流行や対策に関する

る最新の情報を収集した。疾患負担 (Global Burden of Disease) 改訂作業に関連し、菌陽性肺結核中に占める塗抹陽性結核の割合の推定を、先進国のサーベイランスデータを入手しそれを活用して行った。オランダ結核予防会 (KNCV) が主催する TSRU において先進諸国の結核疫学の情報の収集をおこなった。

2) 先進国における結核サーベイランス、特に英国における結核データの管理に関する研究論文・その他の情報収集を行った。

3) OJT 形式の人材育成の観点から、米国結核担当者会議に職員を送り、情報を収集した。

### <在日外国人医療相談事業>

【目的】近年、わが国より結核蔓延状況の高いアジア諸国や南米からの労働者等の入国が増加しており、外国人の多い地区で結核の罹患状況の悪化が危惧されている。これらは、今後の結核根絶計画を推進する上で大きな障害となることから早急に対策を講ずる必要がある。本事業は在日外国人に対し、積極的な結核医療を提供するために、患者の早期発見、治療、治癒をもたらすための様々な対応を行い、結核対策の推進に寄与するものである。

【方法】結核予防会の施設に外国人結核相談室及びその分室を設置し、①外国人に対する結核に関する電話相談及び来所相談、②外国人労働者を多く雇用している事業者への相談及び指導、③日本語学校事業主への相談・指導、④外国人結核患者を扱う病院や保健所への協力支援等を行うとともに、⑤啓発的資料や教材の作成、⑥調査活動、ワークショップ等の開催による関係機関とのネットワークの強化などを行う。相談室には、保健婦、ケースワーカー、通訳、記録員等を配置する。

#### 【結果】

##### ①平成 20 年度に実施した事業内容

##### 1. 電話相談

##### 1) 体制

毎週火曜日 (10 時～15 時)、在日外国人の結核に関する電話相談に応じている (火曜日 17 時まで、水・金曜日 10 時～17 時はソーシャルワーカーのみ在室)。

保健師 (石川)、ソーシャルワーカー (須小)、通訳 2 名 (中国語: 齊藤、韓国語: 鄭一金) で対応している。相談内容によっては結核研究所、複十字病院、第一健康相談所、本部、他から助言を得ている。

##### 2) 相談の概要

##### i 件数

平成 21 年度 (21 年 4 月 1 日～22 年 3 月 31 日) の相談件数は 160 件 (内、特定の対象者がいる相談は 151 件、対象者が不特定の相談は 9 件) だった。

##### ii 対象者の国籍 (151 件中)

中国: 79 件 中国から: 11 件 韓国: 25 件

フィリピン: 8 件 インド: 5 件 ウガンダ: 4 件 イギリス: 3 件

インドネシア・パキスタン・ネパール・ミャンマー: 各 2 件

台湾・タイ・ベトナム・バングラデシュ・エチオピア・アメリカ・フランス：各1件  
不明：1件

iii 相談者（160件中）

対象者本人：113件 家族・知人：14件 医療機関：3件 保健所：23件  
行政機関：0件 学校：3件 NGO：1件 その他：3件

iv 相談内容

a 第一健康相談所における診療支援：124件（54名）

b 電話相談：36件

- ・咳などの自覚症状があるがどうしたらよいか：1件
- ・結核の治療を受けているが相談したいことがある：1件
- ・結核の症状、検査、治療、感染や医療費など、結核に関して知りたい：4件
- ・患者への対応について助言がほしい：10件
- ・通訳してほしい：1件
- ・翻訳してほしい：1件
- ・結核に関する外国語の資料がほしい：11件
- ・外国の結核医療事情について知りたい（現地の医療機関を紹介してほしい）：7件

2. その他の事業

1) パンフレットの発行

「ひょっとして結核?! 結核についてもっと知りたいあなたへ」（英語・中国語・韓国語版）を改訂、発行した（各2,000部、計6,000部）。

2) 資料の送付

医療機関、保健所、学校、NGOからの依頼でパンフレット「ひょっとして結核?! 結核についてもっと知りたいあなたへ」（英語・中国語・韓国語・タガログ語・インドネシア語・タイ語・ミャンマー語・クメール語・スペイン語版）、相談室案内のリーフレット、他機関で作成された資料等を送付した。

3) 調査・研究

①結核研究所（対策支援部保健看護学科）研修（平成21年7月30日）

「当事者の立場から見たDOTS戦略～変わるべきは私たち」で「外国人電話相談室の立場から」として報告した。

②外来看護服薬支援カンファレンス（平成21年5月21日、7月27日、9月24日、11月24日、22年1月21日、3月25日）

第一健康相談所で結核の治療を受けている外国人患者についてのDOTSカンファレンス（保健所、第一健康相談所呼吸器科、結核研究所対策支援部保健看護学科）に出席した。

3. 運営に関する会議の開催

1) 在日外国人結核医療相談事業運営委員会

①目的

相談事業を円滑かつ効果的に運営するための助言を得る。

②開催日

平成 21 年 11 月 24 日

③内容

平成 20 年度及び 21 年度前期の事業報告、21 年度後期及び 22 年度の事業計画について

④出席者

(委員) 石川、杉田、藤木、山田

(オブザーバー) 富田、手塚、永田、星野、山下

(国際部) 安藤、柳、市原

(相談室) 石川、須小

<国際共同研究事業>

①結核菌検査を中心とする診断分野での協力の方向性の研究 (継続)

【研究担当者】角 泰人、御手洗聡

【目的】結核菌検査の精度評価と迅速診断に関する技術の移転の可能性と実践性、有用性を評価する。

【方法】ガーナでは人工痰作成技術に移転し、NRL 及び一部の培養検査実施施設に対して人工痰による喀痰塗抹検査外部精度評価を実施する。モンゴルでは NRL のスタッフに遺伝子検査技術の移転を実施し、実際の臨床分離株について薬剤感受性検査結果と遺伝子検査結果の比較を実施する。同時に実践上の問題点や、臨床的有用性についても評価する。

【結果】モンゴルでは多剤耐性結核が疑われる患者から塗抹陽性喀痰 48 検体を収集し、臨床検体から直接結核菌の DNA を抽出して PCR で増幅して、当該キットによる LPA を実施した。すべての検体で PCR 反応は陽性となり、核酸抽出技術の改善が確認された。培養陽性となった 31 検体での INH と RFP での LPA と標準的的感受性検査結果の一致率は、それぞれ 89.7%及び 93.1%であった。偽陽性が数検体認められ、これは PCR amplicon による汚染と考えられ、UV・次亜塩素酸ナトリウム水溶液処理等にて改善した。ガーナ野口研については、施設や技術の不足から細胞培養を断念したが、キット化した人工痰の作成により、現地でのパネルテストスライドの作成に成功した。この研究からは、新技術導入の際のパッケージ化の重要性が示唆されたものとする。

【結核対策への貢献】結核の確実な診断技術を保証することで、医療資源の浪費を防止する。また、耐性結核を迅速に診断する技術に移転することで、耐性菌の拡大を防ぐことが可能となる。

②結核菌体成分を用いた結核感染診断法の開発 (継続)

【研究担当者】樋口一恵、原田登之

【目的】現在血液を結核菌特異抗原により刺激し、産生されるインターフェロン- $\gamma$ 量により結核感染を診断する方法クオンティフェロン<sup>®</sup>TB-2G (QFT-2G) 検査が普及しつつあるが、手技・経